

検体梱包集荷説明書<管理者さま(検体送付ご担当者さま)向け>

法人向け唾液検体自己採取による新型コロナウイルス PCR スクリーニング検査サービス

お願い事項

①「検体送付票」について

「検体送付票」に必要事項をご記入のうえ、検体が入った二次容器（バイオパウチ）と一緒に三次容器（バイオクールカートン）内に入れて梱包してください。

②「検体 ID、氏名対応表」について

検体採取キットを各検体提供者さまにお渡しになる前、もしくはお渡しになる際に、必ず「検体 ID、氏名対応表」にご記入ください。

検査結果報告書に、検体 ID のみを印字する場合：「検体 ID、氏名対応表」は当ラボへのご提出は不要です。ただし、検査結果の照会に必要となりますので、必ず貴社にて保管してください。

検査結果報告書に、検体 ID および検体採取提供者さまの氏名を印字する場合：「検体送付票」とともに「検体 ID、氏名対応表」も同梱し、当検査所へご提供ください。

※当検査所への個人情報の提供に同意いただける場合にご選択ください。

③保冷手段の確保

唾液検体の採取後、検査キットは直射日光を避け、室温で保存していただくことが必要です。

高温の場所で保管する場合は、冷蔵庫での保管や、一時的冷蔵保存用としてクーラーボックスと氷（または保冷剤）のご準備をお願いいたします。

検体梱包について

*国立感染症研究所『2019-nCoV(新型コロナウイルス)感染を疑う患者の検体採取・輸送マニュアル』の唾液検体の取扱・輸送に準拠。

<検体採取キット・検体採取説明書>各検体提供者さまへ配布してください。



セット内容は以下の通りです。

検体採取説明書



①一次容器（遠沈管）



②保存薬



③消毒剤（アルコールパッド）



④パラフィルム



⑤ジップパック



<包装輸送パック>

⑥二次容器（バイオパウチ）



⑦三次容器（バイオクールカートン）※1



⑧緩衝材



⑨保冷剤



※1 検体数に応じて、大型三次容器（最大 50 検体収納、試験立て発砲スチロール付）または小型三次容器（最大 9 検体収納）が届きます。

基本三重梱包の手順と輸送

※事前に保冷剤の冷凍が必要です。包装輸送パックの着後、検体集荷予定時間の24時間前までに、保冷剤を貴社冷凍庫へ（業務用・家庭用いずれも可）お入れください。冷凍庫がない場合は、オプション（5000円）で当検査所にて冷凍済み保冷剤を手配することも可能ですので、ご相談ください。

1. 一次容器への収納

（検体提供者さま）

唾液検体（2ml）を①一次容器（遠沈管）に入れ、②保存葉を入れます。①一次容器（遠沈管）に確実に蓋をしてください。唾液検体と保存葉が混ざるように、5回ほど振った後、容器の外側を③消毒剤（アルコールパッド）でふき取り、④パラフィルムでシールしてください。（パラフィルムは引っ張って伸ばすと接着出来ます）

注1) 唾液検体を、一次容器（遠沈管）に入れるときに、容器の外側に汚染しないようご注意ください。

注2) 保存葉が皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で15分以上洗い流してください。皮膚の炎症が続く場合は、医師に連絡してください。

注3) 液漏れのないように、容器の蓋を確実に閉めてください。

注4) 蓋をパラフィルムでシールすることで、運搬中の振動による蓋の緩みを防止できるため、必ずお願いします。

注5) ジップパック内になるべく空気を入れないよう注意し、ジップパックのジップをしっかりと閉じてください。

（検体送付ご担当者さま）

提出された一次容器（遠沈管）の蓋・ジップパックのジップが閉まっているか、再度ご確認ください。

2. 集荷までの保管

唾液検体の採取後、検査キットは直射日光を避け、室温で保存していただくことが必要です。

高温の場所で保管する場合は、冷蔵庫での保管や、一時的冷蔵保存用として、クーラーボックスと氷（または保冷剤）のご準備をお願いいたします。

以降の手順は、集荷予定時刻の少し前に行ってください。

3. 二次容器への収納

＜大型三次容器（最大50検体収納、試験立て発砲スチロール付）がお手元にある場合＞

ジップパックで包んだ各一次容器（遠沈管）を試験管立て（発砲スチロール）に立ててください。【図②】全ての検体を収納したことを確認した後に、試験管立て（発砲スチロール）ごと⑥二次容器（バイオパウチ）で包み、確実にシールで閉めてください。【図③】

注1) 一次容器同士が接触しないように必ず各一次容器をジップパックで包み、試験管立てに立ててください。【図②】

注2) 二次容器は防漏性で密閉されるので上記以外は何も入れないでください（ドライアイスを入れるのは厳禁です）。【図③】

＜小型三次容器（最大9検体収納）がお手元にある場合＞

ジップパックで包んだ各一次容器（遠沈管）を⑥二次容器（バイオパウチ）で包み、確実にシールで閉めてください。【図⑤-A】

注1) 一次容器同士が接触しないように必ず各一次容器をジップパックで包んでください。

注2) 二次容器は防漏性で密閉されるので上記以外は何も入れないでください（ドライアイスを入れるのは厳禁です）。【図⑤-B】

4. 三次容器への収納

⑦三次容器（バイオクールカートン）に⑨保冷剤を入れてから二次容器を収納してください。さらに、隙間に⑧緩衝材を詰め、二次容器（バイオパウチ）が動かないように固定した上で、検体送付票を入れ封をしてください。大型三次容器【図④】、小型三次容器【図⑤-B】

5. 集荷について

当検査所または当検査所委託業者が事前に貴社と決定した集荷日時に唾液検体の集荷・回収に伺います。以上の手順により三次容器に収納した唾液検体をお渡しください。

【図①】



【図②】



【図③】



【図④】



【図⑤-A】



【図⑤-B】



お問い合わせ先

ご不明な点がございましたら、当検査所までお気軽にお問合せください。

登録衛生検査所 登録番号 2 港み生医第 387 号

東京PCR衛生検査所

Tokyo PCR Registered Clinical Laboratory

本社：〒107-0062 東京都港区南青山 2-27-27 丸八青山ビル 3F

TEL:03-6721-1570 FAX:03-5786-2538

Mail:medical@naturali.co.jp